

令和6年度伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人 芭蕉翁顕彰会、前田教育会、伊賀文化産業協会)

(令和7年5月現在) 資料 2-1

【基本方針1】誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出（施策の方向I 心の豊かさを目指して、II 文化芸術をすべての市民に）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6 計画時	R6 実績	R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
												R5	R6速報値	
1		俳句入門教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 3-I 5-I 7-I	日常的に俳句に親しむきっかけとして、どこから・何から始めたらよいか手ほどきから、句会に参加できるまでを学び、俳句人口増加をめざす。 芭蕉生誕地であり俳人が多いとされる伊賀で、子どもの頃の宿題が大変であり、大人になんでも苦手意識のある人も多い。苦手のままでなく、俳句は楽しいもの、続けてみたいという思いをもつ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	60人 3回 50000円 2000円	31人 3回 45000円 1000円	定員20名としているが、各回平均10名で、初心者の学びや句会には丁度良い人数である。 その中から、幾人かは市内の句会に参加し始めた。 終了者の中から、献詠俳句児童生徒の部選者が誕生した。	継続		60 3 50,000 2,000	
2		気楽に俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 3-I 5-I 7-I	俳句入門教室を修了したが、どこの句会にも参加できず、せっかく始めた俳句を作る機会としての句会とする。 また、コロナ過で様々な句会や俳句大会が中止され、句会の機会の無い人々に熟練、初心関係なく和気あいあいとした句会で俳句を楽しむ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	40人 2回 30000円 3,000	15人 2回 25000円 600	参加者が少ないが、句会の機会の無い方のため、誰でも参加できる句会を定着させることが大事である。 市内回覧が1度のみであるため、2回目の周知方法の検討が必要。	継続		40 2 30,000 3,000	
3		研修・講師派遣事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 2-I 2-II 5-I	地域や学校などで、芭蕉さんのことや俳句作りの教室研修の講師について依頼があった場合に、講師の紹介及び派遣により、それぞれの研修の支援をする。	参加者数 開催数 開催経費 収入			地区市民センターや住民自治協議会のほか、企業団体等への派遣を行った。	継続			
4		大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 4-I 5-I	史跡芭蕉翁生家で、芭蕉さんのお父さんが子どもたちに読み書きを教えていたことに倣い短時間で継続性のある内容で行う。	参加者数 開催数 開催経費 収入	48人 4回 22000円 1000円	46人 4回 30000円	短時間で分かり易いと好評を得た。 定員が毎回12名と少ないので、参加できなかった方へ資料の提供をした。	継続		96人 8回 100000円 1000円	
5		丸之内地下道掲示板 芭蕉さんの句及び季節の句掲示	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 2-I 2-II 4-I	毎日通る高校生などが、俳句によって季節の移り変わりを感じることが出来る。 また、観光客などは、季節だけでなく、芭蕉さんのふるさと伊賀らしさを感じることができる。	参加者数 開催数 開催経費 収入			広告効果を上げるために、掲示板の開閉しやすさ、また常時清掃しやすい設備が必要。 掲示板の不備が多い。鍵の保管について一考されたい。	継続			
6		芭蕉講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 5-I	芭蕉、俳句、俳諧の研究者や俳人の講演により俳文学の振興等を図る。	参加者数 開催数 開催経費 収入	100人 1回 170000円 5000円	88人 1回 150000円 8500円	芭蕉や俳文学の研究家の講演は難しいという印象を与え、俳人の講演であると、若干参加者が増える。	継続		100 1 150,000 5,000	
7		蕉門大学フォトゼミナール	公益財団法人 前田教育会		1-I 7-II	風景写真に主として取り組み、それぞれの作品に磨きをかけている。受講生同志の情報共有も大切にしている。病院との協働。	参加者数 開催数 開催経費 収入	15人 12回 -	15人 12回 168,000	参加者数は達成している。若干、年齢層が高くなっている。	継続		15人 12回	
8		蕉門大学絵画教室	公益財団法人 前田教育会		1-I	個性の表現、自分らしい絵をみつける。	参加者数 開催数 開催経費 収入	10人 24回 -	2人 24回 -	年度途中に2名が病気のため退会した。	継続		10人 12回	
9		蕉門大学俳句教室	公益財団法人 前田教育会		5-I	2024年度芭蕉生誕380年を迎えます。俳句に親しむ、俳句人口を増やすことを目的に初心者を対象としている。2002年(平成14年)から行っている事業です。	参加者数 開催数 開催経費 収入	15人 12回 -	7人 7回 -	2024年度で第23期生となる。「俳句」は敷居が高いと思われがちである。随時入学を取り入れている。	継続		10人 12回	
10		蕉門大学講座ピアノレッスンループ「ボンミスト」第9回事業アンサンブルの楽しみVol.2~ピアノトリオ~	公益財団法人 前田教育会		1-I 2-II 7-I	コンサートピアノを最大限活用したいという想いから、運営委員洋楽担当を中心にピアノレッスンループ「ボンミスト」を編成。バイオリン、チェロ、ピアノのアンサンブルの魅力を味わって欲しい。	参加者数 開催数 開催経費 収入	200人 -	132人 -	普段は1人でピアノレッスンを受けている他の楽器と一緒に弾くという経験は貴重	継続		200	

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向I 子どもたちの心を豊かに、II 成長に即した文化芸術の提供）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6 計画時	R6 実績	R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
												R5	R6速報値	
11		こども句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	俳句を楽しく学び、俳句が好きな子を増やす。 将来的には、こども句会を定期的(月1回)に開催し、その句会には、都合のつく子が自由に入りができるようにする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	40人 2回 30,000円 -		こども俳句合わせを優先したため、日程等の調整ができなかった。	継続		40人 2回 30,000	
12		夏休みこども俳句指導	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	長年「俳句の日」に「こども俳句教室」を行い、芭蕉翁献詠俳句の事業として夏休みの宿題になっている「献詠俳句」の指導を行っていたが、当日の成果発表もないため、複数日の個別指導の機会をつくる。 都合のよい日、よい時間に、個別に指導を受けることができる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	60人 3回 50000円 -	43人 3回 35000円 -	夏休みに入って直ぐと終わり近い開催日に参加者が集中した。 養虫庵は、句題が多いが蚊の発生が多く参加者が注意を促す必要があった。 保護者から丸投げの児童もあり、親子で学ぶことも必要。	継続		60 3 50,000	
13		こども俳句合わせ(バトルバナナ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	芭蕉翁が「貝おほひ」を上野天満宮へ奉納したことに背り実施。こどもたちが俳句を楽しむために、一定のゲーム性を持たせる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	36人 1回 100,000円 -	48人 1回 214,000円 -	予定を超える参加者があり、参加者、応援者、判者、全員で楽しめた。 俳句は楽しいの感想を得て一定の目的は達成した。	継続		36 1 150,000	
14		お城の俳句募集	公益財団法人 伊賀文化産業協会	せんせいの句会	2-I 3-II 5-I 7-II	お城(主に上野城)をテーマにした俳句を小中学生を対象に募集。上野城への興味、関心を俳句という方法で表現して貰うこと で芭蕉翁生誕380年の年に企画。	参加者数 開催数 開催経費 収入	120人 1回 100,000円 -	俳句募集は芭蕉翁生誕380年のため他の募集と重なり市内の小中学校への依頼が遅くなつたため浸透仕切れなかつたが県外を含めて120名の応募があり、天守閣に作品を掲示し、登閣者の見学に供した。	廃止する				

令和6年度伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人 芭蕉翁顕彰会、前田教育会、伊賀文化産業協会)

(令和7年5月現在) 資料 2-1

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向I 子どもたちの心を豊かに、II 成長に即した文化芸術の提供）

No.	新事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	R6計画時	R6実績	R6目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7方向性	R7計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
											R5	R6速報値	
15	伊賀上野しようもん亭	公益財団法人 前田教育会		2-II 7-I	2013年辺りから再び落語ブーム到来となり、復活し、10年間、年5回の開催をしてきた。蕉門ホールの閉鎖により、入場者の減となるが、落語のおもしろさを味わってほしい。	参加者数 開催数 開催経費 収入	210人 3回 -	115人 2回 -	ホール閉鎖による開催会場の都合もあり、1回減の2回となった。 会場は講座室(60席)のため、2回についてはほぼ満席であった。	継続	280人 4回 -		
16	こども蕉門大学	公益財団法人 前田教育会		2-I 2-II	前田教育会館25周年を機に、小中学校生対象に開催している。次世代に伝承すべき事、また、感性、自由な発想を伸ばすにつながる体験をする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	各10名 はいいく -	くみひも13名 9名 -	開始時期を見直したところ、以前より参加者が増えた。	継続			
17	蕉門大学陶芸教室	公益財団法人 前田教育会		1-I 3-I 7-I	伊賀焼を身近に感じることを目的として、普段使いの小皿等から始める。中級上級と進んで、市展県展等への出展を勧める。	参加者数 開催数 開催経費 収入	10人 9回 -	3人 9回 -	参加者数の達成度は低い。陶芸の「ブーム」も一因しているよう	継続	10人 9回 -		
18	中学のキャリア体験・高校生の郷土学習の受け入れ協力	公益財団法人伊賀文化産業協会		3-I 5-I 7-I	中学生のキャリア体験学習、高校生の伊賀の歴史・文化を学ぶフィールドワークに協力し、若い世代の郷土への理解に促進に期待。	参加者数 開催数 開催経費 収入	30人 3回 -	45,000円 -	学校の養成に応える形の事業であるので達成度は生徒側の問題。中学生のキャリア体験としては、直接就職先に該当しないので次年度は敢えて受け入れはしないこととする。	継続	10人 9回 -		

【基本方針4】施設の整備・有効活用による文化芸術環境の整備（施策の方向I 施設の管理と機能の発揮、II 施設の保存と有効活用）

No.	新事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	R6計画時	R6実績	R6目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7方向性	R7計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
											R5	R6速報値	
19	蓑虫庵管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		4-I 4-II	芭蕉翁ゆかりの蓑虫庵を保存・管理し、一般の参觀に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数 開催数 開催経費 収入	2,000人 -	2,773 -	茶室にエアコンが設置されたため、真夏、真冬の利用促進PRが必要。	継続	2,500 6,674,000 6,466,000		
20	蓑虫庵講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-I 4-II	芭蕉の弟子服部土芳の庵管理の一環として、毎年春分の日に土芳や芭蕉について、学芸員が講演を行い、春めいた蓑虫庵参観のを促す。	参加者数 開催数 開催経費 収入	30人 -	26人 -	講演会には会場が狭隘。	継続	30 20,000 1,000		
21	蓑虫庵でお茶を一服	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-I 4-II	蓑虫庵参觀促進を行い、土芳の芭蕉顕彰の功績を啓める。	参加者数 開催数 開催経費 収入	200人 1回 100,000 50,000	120人 1回 67,000 46,800	来訪者の90%の方が皇茶を希望された。臨時営業許可を得ることができる施設整備ができたため、今後の実施を検討する。	継続	150 1 100,000 50,000		
22	史跡芭蕉翁生家管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-I 4-II	俳聖松尾芭蕉ゆかりの史跡芭蕉翁生家を保存・管理し、一般の観覧に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数 開催数 開催経費 収入	4,000人 -	4,421人 -	再開3年目で、本年度で管理期間が終了	継続	4,000 5,917,000 5,449,000		
23	大天守閣でのイベント	公益財団法人 伊賀文化産業協会		4-II 5-I 7-II	天守閣という独特的ロケーションの中でお琴の演奏を楽しみ、ひととき超俗の雰囲気を楽しんでいたぐれ。誰もが知っているお城の知識からちょっと難しい問題まで、クイズに答えてお城の“はかせちゃん”になってもらう。	参加者数 開催数 開催経費 収入	80人 2回 30,000	80人 0	その時の登閣者を対象にしているため、参加者数は予測できないが、参加者には楽しいひとときを味わって貢っている。通常の登閣チケットを購入していただいているがこの事業に対する収入は0。	継続	30 20,000 1,000		

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造（施策の方向I 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、II 新しい文化芸術の創造）

No.	新事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	R6計画時	R6実績	R6目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7方向性	R7計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
											R5	R6速報値	
24	芭蕉祭	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-I	芭蕉翁が元禄7年(1694)10月12日、51歳で亡くなった翌年から毎年開催し、翁を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	1回 7,373,000 6,903,000	1回 7,374,023 6,979,500		継続	1 7,559,000 7,253,000		
25	芭蕉祭 月見の献立歓迎会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-I	復元研究した「月見の献立再現の会」により調理され、世に広め後世へ伝えていく。	参加者数 開催数 開催経費 収入	30人 1回 130,000円	30人 1回 105,000円	30食限定のため、市民が知る機会が少ない	継続	30人 1回 130,000円		
26	芭蕉祭 全国俳句大会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		1-I 1-II 5-I	芭蕉祭式典終了後、参列者が俳句大会で芭蕉翁を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	80人 1回 290,000	75人 1回 285,000		継続	80人 1回 350,000		
27	しぐれ忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市	山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」	5-I	芭蕉祭を新暦で実施しているのに對し、旧伊賀町の芭蕉翁顕彰会が旧暦の命日に芭蕉翁を偲び実施していた。市町村合併、顕彰会合併を経て、当日の運営を地元山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」に委託し、翁を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	100人 1回 300,000	100人 1回 300,000	コロナのために中止していた、コーラスユーによる「芭蕉讚歌」の合唱が復活した。	継続	100 1 300,000		
28	土芳忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-I	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀芭門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	50人 1回 20,000	26人 1回 20,000	参加を促すには、土芳を偲ぶ意義を、わかり易く伝えることが必要。	継続	30 1 200,000		
29	土芳忌追善の講話	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-I	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀芭門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	50人 1回 5,000	26人 1回 1,500		継続	50 1 5,000		
30	土芳を偲ぶ俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 5-I	芭蕉の弟子、服部土芳の命日に俳句会を行い土芳を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	50人 1回 60,000	26人 1回 57,200	土芳を偲ぶ俳句会であるため、当日の法要の様子を詠んだ句が多く、法要に参列しない人は参加にくい。	継続	50 1 60,000		

令和6年度伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人 芭蕉翁顕彰会、前田教育会、伊賀文化産業協会)

(令和7年5月現在) 資料 2-1

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造（施策の方向 I 地域が育んできた歴史・文化の再評価、II 新しい文化芸術の創造）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6 計画時	R6 実績	R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート		
													R5	R6速報値	
31		(俳句の教え方教室(句会を楽しむ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2- I 2- II 5- I	市内の小中学校では芭蕉祭に献詠するため、俳句が夏休みの宿題となっている。 献詠俳句の指導だけでなく、俳句裾野を広げる指導者が、俳句指導の取組方にについて学ぶ。 献詠俳句の指導ができるよう、指導者自身が句会を楽しむことにより俳句の楽しさをこどもたちに伝える。	参加者数 開催数 開催経費 収入	30人 1回 10,000 -	21人 1回 8,000 -	伊賀の学校では、俳句学習の重要性を認識されているため、積極的な参加及び意見も活発に出された。	継続	30 1 10,000			

【基本方針7】文化芸術を通した社会的課題への取り組み（施策の方向 I 社会参加のきっかけづくり、II 協働の場の創造）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン 基本方針	事業目的	R6 計画時	R6 実績	R6 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R7 方向性	R7 計画時	市総合計画	まちづくりアンケート	
													R5	R6速報値
32		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会	伊賀市社会福祉協議会 (共催)	7- I	社協が取り組んでいる生活課題をも踏まえ、話題作を上映予定	参加者数 開催数 開催経費 収入	300人 1回 -	247人 1回 -	参加者については、予約は280名であったが、インフルエンザ等流行のため、当日のキャンセルが多かった。	継続	300人 1回 -		
33		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会		1- I 2- II	蕉門ホール施設さよなら上映会として行う。	参加者数 開催数 開催経費 収入	600人 3回 -	196人 3回 -	既にDVDが発売されていた。 行事の重なりが多かった。 予約のキャンセルはなかった。	継続	- -		